

日本精神保健社会学会

2024年7月15日

THE JAPAN ASSOCIATION OF

事務局：東京都豊島区西池袋 2-39-8

MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

ローズベイ池袋ビル 3階 東京メンタルヘルス内

<日本学術会議協力学術研究団体 No.1001>

日本精神保健社会学会事務局：担当/村上

ニュースレター第81号

TEL : 03-3986-3220 / FAX 03-3986-3240

発行人：山口 豊 編集人：塩谷育子

E-mail:murakami@t-mental.co.jp

第30回 日本精神保健社会学会学術大会に向けて

第30回学術大会実行委員長

鈴木 裕子

(千代田区保健福祉部在宅支援課)



今年、日本精神保健社会学会学術大会は、第30回の節目の年です。本学会は、痛みや辛さを抱えたすべての人を対象にメンタルヘルスの知識と技術を、セルフケアにも応用できるように働きかけてきました。今年は、これまで学会が取り組んできた、すべての人の痛みを和らげるケアを実現する社会をさらに推進するために、協

働することにも焦点をあて、多様な立場の方と話し合い今後の指針を得られたらと思います。WHO(1989)は、重い病(主のがん末期等)を抱えた人への緩和ケアの概念を示した際、痛みを「身体的」「心理的」「社会的」「霊的(生きる意味への懸念)」に分類し尊厳を重視した対策を課題としました。近年、緩和ケアへの取り組みから得られたホスピスマインドを重い病を抱えた人だけでなく、すべての人に広めようとする動きがあります。日本は少子高齢多死社会となっており、人生の最期の時、死後も含めるケアを協働する必要があります。一方で戦争、災害、感染症、経済格差等への対応にも迫られ、大人は行き詰まり、子どもや若者は将来への希望が持ちにくい状況にあり、痛みを和らげるケアのニーズが拡大しています。そして多様な施策において当事者と地域住民による参画が推

進の鍵とされています。2024年1月に施行された認知症基本法でも、尊厳を守る権利擁護と当事者発信が重視されています。今回はシンポジストに、あらゆる人にホスピスマインドを実現しようとするエンドオブライフ・ケア協会の認定講師と、多様な活動で協働している認知症当事者と家族、介護職を招いて現状を伺い、痛みを和らげるケアの協働を推進するためのヒントが得られればと思います。多様な立場の方の参加をお待ちしております。

第30回 日本精神保健社会学会学術大会・総会のお知らせ（第1報）

今年度の学術大会・総会は、引き続きオンラインでの開催となります。研究発表もオンラインでの発表になります。

●開催日時：2024年11月23日（土）祝日、10時00～17時00分

●大会テーマ：痛みを和らげるケアを協働する社会

①基調講演 宗像 恒次 日本精神保健社会学会名誉会長

（筑波大学ベンチャー株式会社 SDS 代表、筑波大学 名誉教授）

②シンポジスト

○設楽由香 エンドオブライフ・ケア協会

○丹野智史 「おれんじドア」

○綿貫良彦 綿貫カウンセリング事務所

○笹原恭子 渋谷介護サポートセンター

●ツール：ビデオ会議システム（Zoom）を用いて開催

●参加申込：学会事務局にメール（本ニュースレター 1 ページ右上に記載）にて、氏名、メールアドレス、電話番号を記載のうえ、お申込みください。

●参加費：一般 4,000 円、学会員 3,000 円、学生 2,000 円

●参加振込み：2024年11月13日（水）までにお振込みください。

振込名には、個人名および「参加費」とご記載ください。振込み確認後、学術大会・総会前日までに、招待メールをお送りします。運営の都合上、当日での参加はできませんので、ご理解とご協力をお願い致します。

●振込み先：ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

基調講演のご案内

「日本精神保健社会学会の30年を振り返って、生活の質の高い社会づくりを目指す」

宗像 恒次

(日本精神保健社会学会名誉会長、筑波大学名誉教授、
筑波大学ベンチャー株式会社 SDS 代表)



本学会ができた目的はメンタルヘルスの問題の分析を通じてそのネガティブな問題に潜在するポジティブな面を見出しうる社会理論や方法論を構築し人々の生活の質の高い社会づくりに貢献するためです。メンタルヘルスの問題といえば、うつ病、自殺などの増加がよく知られていますが、糖尿病、がん、関節リウマチやシェーングレン症候群などの自己免疫疾患、アレルギー疾患などの身体病がメンタルヘルス問題と認識されてこなかったところがあります。それらの身体病もストレス問題が根底にあり、ストレスを乗り越える力としてのレジリエンスの弱さにあるという認識がこれまでされてこなかったのです。だからストレスを解消する方法として食べ物や薬物に依存する方法を取り、ストレス問題を用いて体力やレジリエンスを高める方法とするという学習はされてこなかったのです。身体病もその根底にあるストレス問題をつくる恐怖感や無力感を生み出す祖先から世代間伝達する潜在記憶を明らかにして父系、母系祖先の恐怖感や無力感を克服する光景イメージを見出すことでストレスに対する脆弱性を克服し、レジリエンスを高めることができるのです。

祖先の恐怖感や無力感を生み出す出来事には、災害、飢餓、戦争、流行病などのイメージがあり、それを克服した光景イメージをもてることで子孫としての親や自分の恐怖感や無力感を解消できた喜び、幸せを持つことができるのです。すると親や自分の顔表情が笑顔の表象を持つことができるようになり、家族と自分や職場などの周りの人との対人関係が不安感や無力感のない生活の質の高いものになるのです。これによって副交感神経優位で、リンパ球比率が高く、免疫力高いものとなり、感染症を回避でき、抗炎症性サイトカインが高まり、自己免疫疾患を防ぎ、また p53 など 63 のがん抑制遺伝子が優位化し、悪性腫瘍の増殖を防ぐことになるのです

★研究発表の募集★

1. 発表の申込み

発表希望者は、演題名と学会指定の抄録を添え、代表者名、連絡先（電話およびメールアドレス）を記載のうえ、10月4日（金）までにお申込みください。抄録の定型フォーマットは、本学会のホームページに「実践報告型」、「科学研究型」をアップしています。発表形式に応じていずれかを選択し、A4、1枚にて記載してください。

2. 申込み方法

学会事務局にメールにてお申込みください（本ニュースレター 1 ページ右上に記載）。

3. 採択の可否

採択のご連絡は、10月21日（月）までに発表代表者にメールにてご連絡します。

なお、オンラインでの発表になりますので、発表者は6名になります。

4. 発表要件

1) 学会費の納付

発表者全員が本学会の会員であること。また、2023年度の年会費（2023年10月1日～2024年9月30日）と2024年度の年会費（2024年10月1日～）の納付済みであることを要件とします。

2) 研究発表の参加費

研究発表の参加費は、別途2,500円が必要となります。振り込みは、11月13日（水）までをお願い致します。

3) 振込み先

ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

振込名には、個人名および「研究発表」とご記載ください。

2024 年度「学会奨励賞」募集のお知らせ

今年度も「学会奨励賞」を募集いたします。エントリーを希望される方は、本学会ホームページの「日本精神保健社会学会奨励賞内規」の選考基準を充たしているかご確認のうえ、学会事務局にお問い合わせ下さい。ご希望の方に必要書類をお送りしますので、書類作成のうえ、9月末日までにご応募ください。

機関誌「メンタルヘルスの社会学 Vol. 30」の原稿募集

年報編集委員会では、会員の皆様からの原著論文を募集しております。また、総説、研究報告、実践報告、短報、研究ノート、資料等もお待ちしております。論文の書式は年報の執筆要項をご覧ください。なお、タイトル、抄録の英文についてはネイティブチェック(専門校閲)を必ず受けるようにしてください。

1. 原稿締切：2024年8月16日(金)

多くの方の投稿をお待ちしています。

2. 送付方法および送付先

* 郵送のみの受付となります。

詳細は、本学会ホームページの投稿規定をご確認ください。

○杉本 洋

(新潟医療福祉大学)

新潟医療福祉大学に入職して 20 年近くになりました杉本洋と申します。日々看護学科所属の教員として主に看護師、保健師の教育に携わっております。

私は学生時代に看護師資格取得が可能な大学に進学し、修士課程は看護を専門とする指導教員のもとで糖尿病教育について学んできました。その後、保健センターに勤務しました。精神保健関係も担当業務のひとつでした。地域における生活の生々しさに魅力を感じ、博士課程は多様なバックグラウンドを持つ人々が多く通う大学で文化人類学を専門とする指導教員のもとで大学勤務をしながら社会人院生として研究を進めてきました。

研究活動では、メンタルヘルス関連の当事者による活動の研究を博士課程の頃より続けてきました。新潟で主に活動している、依存症や摂食障害などの経験を有する人々による活動をフィールドとし、15 年を超えて継続して関わってきました。主に、自作詩の朗読やパフォーマンス、音楽などを行う人々、組織に関わり、イベントに出入りしながらフィールドワークを行ってきました。研究の視点としては、パフォーマンスなどにみられる「表現」に着目してきました。さらには、「表現」をパフォーマンスなどの芸術活動に限らず、人が他者や社会に対して自らを発するものとして広くとらえながら、社会の動きを見ていきたいと思ってきました。当事者の方々の発するメッセージは日々私自身の日常の困りごとや人間関係の悩みなどにおいて共感することも多く、苦勞しながらも意義を感じながら研究活動を続けてきました。活動に巻き込まれながら今後も知見の生成・公表を進めたく思っています。また昨年くらいから縁がありまして精神科クリニックにおける調査もはじめています。精神科クリニックがいかに地域づくりに関わっていくのかを考えていきたいと思っています。

日常は教育、大学運営にかかわる業務が多く、社会学に関する講義も担当しています。社会学は、一部の人は強い関心を持ってくれているように感じられますが、教育を担当する私自身の力不足を感じることも多く、より多くの看護職を志す学生に対して社会学の魅力を伝えていきたいと思っています。大学院教育も担当しています。大学院生には看護を

教えている教員、精神保健、精神看護を専門とする方も複数おり、教員とともに学びあいながら研究を進めています。留学生の方もおられ、大変刺激的で私自身学びを深められる環境であります。

私自身は看護をバックグラウンドとしながらも、看護の型にはまりにくさを感じる時もあり、かといって文化人類学や社会学のコミュニティーの中で深い議論ができるわけではないように感じ、無力感を抱くときがあります。しかし私なりの立場で何かしらの学術、健康・医療分野への貢献ができるのではないかと考えております。

私自身としてはまさに「精神保健社会学」を基盤とした学際的な領域で居場所を見つけていきたいと思っています。今回このニュースレターの文章を書かせてもらえたことは大変うれしく思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。**2023年度の年会費は、2023年10月1日から2024年9月30日の期間**です。また、**2024年度の年会費は、2024年10月1日から2025年9月30日の期間**です。2023年度の年会費納入がまだの方は、速やかに納入くださいますようお願いいたします。会費、振込み先は以下の通りです。

会費 通常会員 5,000円 学生会員 3,000円

振込み先 ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、本年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と2年分」とご記入下さい。その他ご不明な点がございましたら、学会事務局に お問い合わせ下さい。



